

愛媛県久万高原町

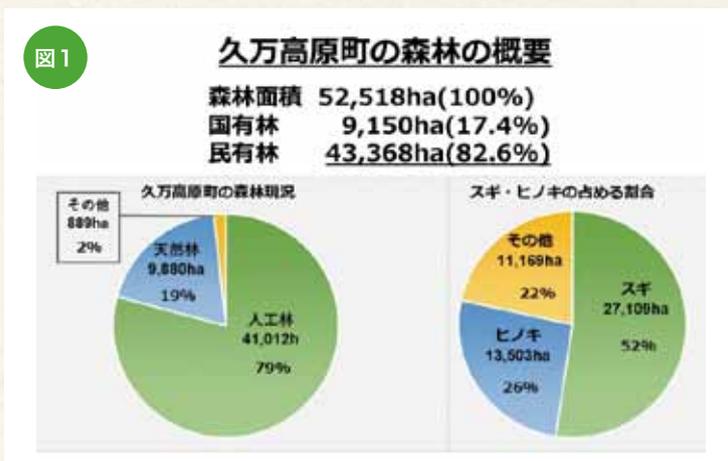
「林業成長産業化地域構想」を背景に
産学官の連携を通して多角的な取り組みを推進

1 久万高原町の現況

愛媛県上浮穴郡久万高原町は、平成16年に上浮穴郡内4カ町村(久万町、面河村、美川村、柳谷村)が合併し誕生しました。当町は、愛媛県の中間に位置し総面積58,369haの県下最大の面積を有し、その内森林面積は52,518ha(森林率90%)、民有林面積43,368ha(82%)という山林に覆われた町です(図1参照)。

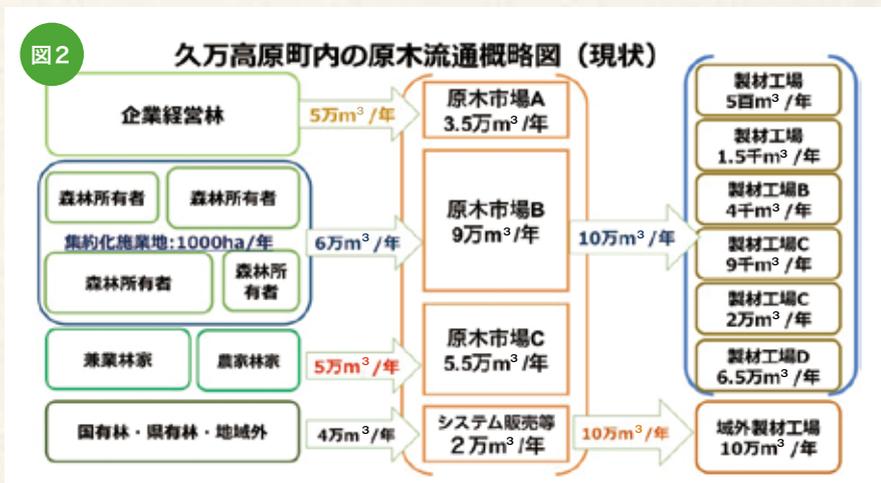
当町では、平成17年度から始まった、久万広域森林組合及び当町と愛媛県の連携による提案型施業地集約化事業「久万林業活性化プロジェクト」(年間集約面積概ね1,000ha)により森林整備が進められています。

また、農家林家を中心とした個人所有林における自伐施業(年間推計5万m³)も盛んに行われており、合わせて域内の素材生産量は年間概ね20万m³で推移しています。林業総生産額は概ね25億円であり、林業は町の基幹産業となっています(図2参照)。

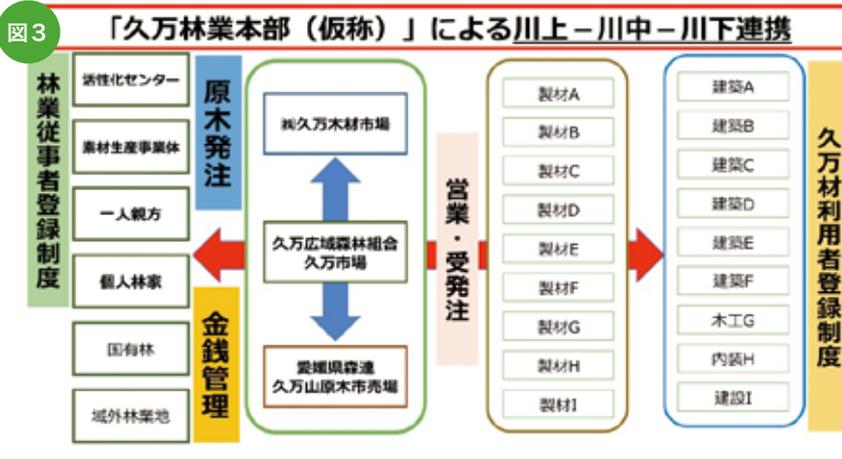


2 林業成長産業化に向けた取り組み

平成29年に当町は、林野庁事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」のモデル地域(全国16ヶ所)に選定されました。この選定に先立ち、当町では



「林業成長産業化地域構想」を策定しました。地域構想では、「林業日本一のまちづくり」をキャッチフレーズに、①森



林資源から木材製品までの物流・商流の一元化、②森林経営者を含む担い手の確保・育成、③町産材のブランド化と利用拡大、④森林の多面的利用推進

という4つの目標を立て、これを実現するため、産官学民連携による「地域総合商社」の設立を目指すこととなっています(図3参照)。

3 これまでの取り組み

① 森林資源から木材製品までの物流・商流の一元化

ドローンにより撮影した高精度画像(4K)を分析し、森林資源量を把握するシステムを開発しました。この開発により、これまで行ってきた森林調査に係る労力が大幅に削減できると同時に、「森林資源量」立木在庫量も把握可能となり、在庫に基づく事業受発

図4

- 範囲を事前に設定し自動飛行可
- 1回の飛行は20分(最大撮影範囲5km²)
- 写真は自動撮影
- 必要に応じて動画撮影(営業ツール)
- GPS機能で測量も可能(周囲・路網)
- 写真には座標がついている(GISで利用)
- 材積計算は「林分材積表調整版」を使用。
- 胸高直径は人力で測る必要がある

注も視野に入りました(図4参照)。加えて、施業現場における日々の木材生産量や作業進捗状況を受発注者間で共有できるICTシステムを開発しました。このシステムの活用により、需要側の求める造材を行うなど、需給関係に沿った生産・流通体制の構築を目指しています(図5参照)。

② 森林経営者を含む担い手の確保・育成

兼業林家や一人親方などこれまで正確に把握されていなかった林業従事者を取りまとめ、その活動を支援することで将来的な林業の担い手確保を目指しています。また、森林所有者を中心に森林に興



味を持つ方を対象とし、森林経営の基本事項を学ぶための森林経営講座と林業の基本を学ぶための基礎実習を愛媛大学や愛媛県と連携して開設しています。

③ 町産材のブランド化と利用拡大

町産材の利用拡大を目的に、法政大学と連携して、機能性の高い木造住宅を開発しました。この住宅の販売に關連して現在、町内の原木市場と製材工場、そして愛媛県下の建築事業者が連携して部材供給を行える体制整備を目指しています(写真1参照)。

また、町産材のブランド化を目指し、中国・台湾を中心に当町で生産される製材品・木製品の中でも高付加価値な商品について輸出を目指しています。

④ 森林の多面的利用推進

当町の魅力と主力産業である林業・製材業への都市部住民の理解醸成を目的

的とした林業体験ツアーを毎年開催しています。ツアーの開催にあたっては、愛媛県内の建築事業者とも連携し、町産材の魅力などもPRしているところです(写真2参照)。

4 おわりに

モデル事業の運営に当たっては、委員会を設置し、町内の林業・製材業関係者の他、愛媛大学(森林、林業)や法政大学(木材利用、建築)といった大学、さらには、IT企業や金融機関といったこれまで林業とはあまり関わりのなかった企業、そして愛媛県や愛媛森林管理署などの広域行政機関も参画して、これまでの「中山間部の問題」としてのみ捉えがちにされてきた課題を「都市部も含めて共に解決する方法」を模索していきます。



写真1 機能性の高い木造住宅



写真2 久万林業応援団の育成

